



text\_sakuraba

## 修士論文審査会 — 最後の最後まであきらめない! —

### The Final Defense of Master's thesis —Never Give up to The Very End !!—

平成 22 年度の修士論文審査会が 2 月 8 日から 9 日に行われ、本研究室の M2 九名 (阿部、大熊、神原、熊谷、黒川、鈴木、櫻庭、永野、山下) が発表に臨み、無事論文審査を通過しました。また発表後にはおつかれ会も行われ、大いに盛り上がりました。

The final defense of master's theses was held on 8,9th February, and 9 students (Abe, Okuma, Kambara, Kumagai, Kurokawa, Suzuki, Sakuraba, Nagano and Yamashita) gave a short presentation of their research, and there was the party after the defense.



▲祖師谷団地を前に。M2 以上に助教の先生方もほっとした面持ち。

## 永野修士設計、決戦を乗り切る!

9 人の戦士たちの中で唯一「設計」に挑んだ永野真義くん。都市デザイン研究室では十数年ぶりの修士設計です! 研究室に泊まり込み、ときに貧血で倒れつつも、M1 や M2 の教え子! ? などなど、たくさんのヘルパーに囲まれながら、ブレイン永野くんは走り続けました。



▲大方先生に模型をつかまれるというハプニングも!

当日は、想像をはるかに超えるエキサイトメント・マッチ! 審査会の最後を締めるにふさわしい、賑やかな議論を繰り広げました。みなさま、お疲れさまでした!

氏名	題目
阿部 正隆	戦前における地方計画論の軌跡 —地方計画仮法案・関東地方計画要綱案を到達点として—
大熊 瑞樹	大田区の工場ネットワークを基盤とする地域性に関する研究 —大森南地区を事例として—
神原 康介	新宿区笹笥地区のまちのネットワークが地域包括ケアに果たす役割 —都心部高齢者に対する支援主体の関わり方に着目して—
熊谷 俊一	大規模商業施設と地域社会の共存のあり方に関する研究 —制度・実態両面からみた可能性と展望—
黒川 佑人	継続的な地域拠点型アートプロジェクトによる地域の変化に関する研究 —初動期の主体的な住民参画に着目して—
鈴木 亮平	ワルシャワ歴史地区の復元とその継承に関する研究 —文化財としての価値をめぐる戦後の議論に着目して—
櫻庭 敬子	大都市近郊の移民集中地域における多文化共生の拠点に関する研究 —埼玉県川口市の移民を支える都市施設に着目して—
永野 真義	dancing on grid 時間的伸縮性と空間的連鎖性を備えた団地建替システム 公社祖師谷住宅を事例として
山下 航司	再開発プロジェクトにおけるパブリックアート設置空間に関する研究 —デザインの関係性と機能的関係性に注目して—

## 審査会後の打ち上げ

2 月 8 日から 9 日にかけて修士論文の審査会があり、私の研究室のメンバーも力のこもった発表をしてくれました。終わった後の打ち上げコンパも、渾身の力を振り絞ったあとの爽快感と開放感が溢れる、気持ちのいい盛り上がり方をしました。やはり全力を尽くすということは何につけ、いいものですね。

(西村先生 twitter@yukionishimura より)



▲発表を終え、打ち上げで盛り上がるお世話になった先生方と M2

# D3 江口、博士論文審査会開かれる！

## The Final Defense of Eguchi's Dissertation was Held!

2月10日(木)17時半から、博士課程3年江口久美さんの博士学位請求論文審査会が行なわれました。主査は西村先生で、副査は石川先生、伊藤毅先生、大方先生、窪田先生(五十音順)です。発表論文の題目は、「1890年代から1930年代の古きパリ委員会による一歴史的環境保全に関する研究歴史の記念物をめぐる都市的視点の導入と展開」です。今後のご活躍を楽しみにしております。お疲れさまでした！

D3 江口 久美



▲教授陣の前に発表する江口さん

本研究について、2008年から2年間のフランス国立社会科学高等研究院(EHESS)のオギュスタン・ベルク先生の下での留学を行いました。パリでは古きパリ委員会(CVP)のアーカイヴに頻りに足を運び調査しました。写真はアーカイヴの考古学的・芸術的目録(CAA)に所蔵された、1916年の1区ボン・ザンファン通り8番地で、CVPが「ピトレスクである」と評価して記録したものです。審査会では、先生方から歴史を立体的に描き出すことや、概念を空間的に理解できる様示すことについて貴重なご指導をいただくことができました。今後の研究に活かしていきたいと思っております。(心の叫び: picturesqueの定義について英和辞典を用いているというご指摘について回答の機会がありませんでしたが、本論ではOxford English Dictionaryを用いており英和辞典は日本語としての一般訳の例示に用いたのみでした。)



▲考古学的・芸術的目録に掲載されたピトレスクな界隈風景

### プロジェクト報告

## 一年の活動を住民と共有！

## The Presentation with residents!

各プロジェクトもそろそろ年度末のまとめの季節となりました。



### 大田 OTA-project プロジェクト

text\_muramoto

2月3日から5日の3日間、大田工業フェアにおいて「モノまちラボ」という大田PJの研究成果を発表する企画を行いました。3スタジオがそれぞれ、大田のモノづくりの技術を体感できるガチャガチャとそれに連動したまち歩き、大田の技術を活かして廃材で作ったオブジェ、大田の特徴である「工場町家」の紹介と空間提案を展示し、大盛況に終わりました。今回の企画で、モノづくりというポテンシャルを活かしたまちづくりを考えていこうという私達の姿勢が多くの大田の人々の理解と賛同を得たので、来年度以降はさらに具体的かつ活発な活動を展開していこうと思っています！



▲ヘラ絞り体験を職人がサポート



▲来場者の方々に模型を解説



### 高山 TAKAYAMA-project プロジェクト

M1 高見 亮介

2月7日に住まい・まちづくり担い手事業活動報告会にて、今年度の高山プロジェクトの活動目的である「一色・惣則集落マネジメント計画策定計画(マネジメント計画のつくり方の計画)」について報告してきました。ディスカッションでは、①方針や計画等を作成した際にどうやって実際に運用していくのか、②行政との関わり方、③活動をどう継続していくのか、について主に議論しました。7日はM1のジュリー日だったため、午前中にジュリー、昼から報告会と非常にタイトで濃密な一日でした。



▲報告会のパネル

## Information

### 2月、3月の予定

2月12-13日	靱PJ現地調査
2月15日	B4ジュリー
2月25日	高山PJ現地報告会
3月24日	学位記授与式&追いコン@青蓮

### ★ 編集後記

櫻庭 敬子

最後の編集となりました、櫻庭です。さて、空って、いつも自分に寄り添ってくれてくれるって思いませんか？ 修論発表の朝は雪でした。それまではしばらく快晴が続いていました。学校帰り、うつむきがちな顔を上げてみると美しい三日月が微笑んでくれたり。そんなひとつ空の下、私たちはそれぞれに生きているんですね。安心できる場所からちょっと飛び出してみると、「ちょっと」以上の収穫があることって多いですね。何があっても、ひとつ空の下なんだから、安心して飛び出していこうと思います。